

基礎教育保障学会設立趣意書

私たちは、ここに基礎教育保障学会を設立します。

基礎教育とは、人間が人間として尊厳をもって生きていくために必要な教育で、人間の生活に最低限度必要とされる基礎的な教育のことで、

私たちは、すべての人々に基礎教育が保障される社会をめざします。それは、すべての子どもが

義務教育をきちんと受けることができる社会を基本としつつ、就学前教育、職業教育、

成人識字教育なども含めた幅広い教育を受けることができる社会です。

私たちは、子ども、青年、大人といったあらゆる年齢層が、国籍・民族、社会的出身、性の

多様性、障がいの有無などによって差別されることのない教育の内容と方法と制度を求めます。

私たちは、基礎教育の研究を軸に、関係分野との交流をひろげ、現場と協力して実践を

前に進めていきます。そうすることで、日本の教育を、そして、社会をより一層豊かなものに

したいと考えています。

【日本での基礎教育の必要性】

生涯学習社会と言われる今日の日本社会においても、基礎教育の保障は、大きな課題です。

2010年の国勢調査によると、「未就学者」は12万8187人です。「未就学者」とは、「学校経験なし

又は小学校中途退学者」、つまり、「学歴ゼロ」と言われる方々です。

では、中学校の未修了まで含めると、何人いるのでしょうか。1985年の中曽根首相の国会

答弁書では約70万人、全国夜間中学校研究会では百数十万人と推計しています。また、

OECD(経済協力開発機構)のPIAAC調査(国際成人力調査)の結果から推測すると、

日本には、「十分な読み書き能力を持たない成人」が500万人程度います。

【社会の現状】

近年、日本社会の貧困や格差拡大が社会問題化する中、「子どもの貧困対策法」や「生活困窮者自立支援法」などが相次いで成立しました。このような中、形式卒業や居所不明、無戸籍などのために基礎教育が保障されない若者の増加も、指摘されています。そうした若者が、もう一度、安心して学べる場を保障することは、貧困の連鎖を防ぐという観点からも、とても重要なことです。また、多様性を尊重し、互いを理解しあいながら暮らしていくために、基礎教育は、今日、ますます大事になっています。

【基礎教育研究の現状】

これまで、日本における学齢期を過ぎた人々への基礎教育は、夜間中学や地域日本語教室、被差別部落の識字学級などによって提供されてきました。日本の基礎教育実践は、ユネスコの識字教育や、パウロ・フレイレの提唱した批判的識字にもつながる、高い水準だったと言えます。しかし、実践の豊かさに比べると、基礎教育の研究は十分には行われてきませんでした。近年、貧困世帯や生活困窮者を対象とした自立支援や学習支援が、日本各地で取り組まれるようになりました。そこでは、働くことを幅広くとらえ直すことが提唱されています。教育・労働・福祉など様々な分野の人々が交流し、互いの知見に学びあうことが求められます。

【国際的動向】

国際的には、基礎教育 (Basic Education) という概念が定着し、豊かな実践とそれを支える政策がノンフォーマル教育 (Non-formal Education) として展開され、研究も蓄積されてきました。現在、グローバル化が進み、日本に住む外国につながる人たちも増える中で、基礎教育政策の抜本的な改革や充実が求められています。そうした政策立案を支え、後押しするような研究の進展が待たれています。

もくひょう
【目標】

かだいいしき わたし ねん がつ き そきょういくほししょうがっかい せつりつ
こうした課題意識のもとに、私たちは、2016年8月に基礎教育保障学会を設立します。

わたし がくじゆつせい たも けんきゅうしゃ じっせんしゃ ぎょうせいかんけいしゃ ぎかいかんけいしゃ
私たちがめざすのは、学術性を保ちつつ、研究者、実践者、行政関係者、議会関係者、

しみん どうじしゃ きょうどうたんきゅう あたら がっかい
市民、そして当事者による共同探究ネットワークとしての新しい「学会」のかたちです。

じっせん がくもん げんぼ ゆた げんき けんきゅう こくないがい けんきゅう
それは、実践のための学問です。現場をより豊かに元気にするための研究、国内外の研究を

せいさく と み しめい
ふまえた政策づくりにむけた取り組みを使命とします。

わたし がっかい やかんちゅうがく しきじうんどう ちいきにほんごきょうしつ せいかつこんきゅうしゃ じりつしえん がいこく
私たちの学会は、夜間中学、識字運動、地域日本語教室、生活困窮者の自立支援、外国に

ひと がくしゅうしえん しょう ひと けいぞくきょういく きょういくぶんや ふくしぶんや ろうどうぶんや
つながる人の学習支援、障がいのある人の継続教育など、教育分野・福祉分野・労働分野などの

けんきゅうしゃ かんけいしゃ こうりゅう れんけい すす
研究者や関係者の交流・連携を進めます。

き そきょういく ほししょうもんだい わたし もんだい かんが かつ こうどう なかま ほしゅう
基礎教育の保障問題を「私たち」の問題として、考え、語り、行動する仲間を募集してい

ほんがっかい せつりつしゆし りかい せつきょくてき さんか こころ ま
ます。本学会の設立趣旨をご理解いただき、みなさまの積極的なご参加を心よりお待ちしております

おります。

ねん がついつちち よ にんいちどう
2015年12月1日 呼びかけ人一同

猪狩恵美子、石井山竜平、岩槻知也、
岩本陽児、上杉孝實、上田孝典、
内田純一、江頭晃子、大安喜一、
岡田敏之、小田切督剛、河合隆平、
金侖貞、草京子、櫛部武俊、
工藤慶一、見城慶和、小林文人、
庄司匠、新矢麻紀子、関本保孝、
荘保共子、添田祥史、棚田洋平、
長岡智寿子、野山広、春原憲一郎、
藤田美佳、松田泰幸、森実、
山田泉、湯澤直美、李正連